

平成 29 年

東京大学文科 II 類合格

(中郷小学校出身)



「計画を立てて勉強する」

勉強において計画を立てるのは最も重要なことです。計画を立てずに勉強すると効率が悪くなってしまいます。「この日はこの問題集を〇ページやる」のようにできるだけ具体的に、1週間単位で立てましょう。最初は上手いかなのが当たり前なので、適宜修正を加えながら計画を立てましょう。慣れてきたら1ヶ月単位で作ってみても良いかもしれません。ちなみに、「過去の模試や定期テストを見直して自分が苦手だと思うところ」を潰すつもりで計画を立てると上手いきやすいですよ。また、適度に休む日を入れることも大切です。私は「定期テストや模試が終わった日は勉強を一切しない」というルールを作ってメリハリを付けていました。

「とにかく集中して勉強すること」

「メリハリをつける」ことは大事ですが、勉強時間が減ってしまったりは元も子もありません。受験まではまだまだ長いのですから、集中力や体力を付けるためにも勉強はできるだけ続けるようにしましょう。「継続は力なり」と言いますが、各教科バランスよく毎日勉強することで、実力も付いてきます。スマートフォンを保護者の方に預ける、勉強部屋にマンガを置かないなどして、集中して勉強できる環境を作りましょう。

【私の中学校・高校時代の勉強の流れ】

中学校1・2年生 陸上競技部に所属。部活動を通して体力と根性が身に付いた。

中学校3年生 勉強に目覚めてしまう。陸上競技部を引退し、勉強を頑張る。

高校1・2年生 定期テストや模試に向けて勉強する。

高校3年生 自習室に残って勉強するようになり、平日の自習時間も6時間を越える。「苦手を潰す」勉強から「入試に対応できる力を付ける」勉強へ。

【おすすめ参考書】

- 『現代文読解の基礎講義』(駿台文庫)
- 『文系数学のプラチカ』(河合出版)
- 『英文基礎問題精講』(旺文社)

段取り八分の言葉通りどんなときも計画をたてるのが肝心です。

勉強するには、環境が大事だということです。誘惑のない環境が大事なんです。

付属中では全員が部活動に入学することを基本としているため、入試を乗り切る体力もばっちりついたようです。

中高一貫教育では、高校の学習を先取りする中学3年生最大のターニングポイントのようです。

中学生にはちょっと早いかも

平成 30 年

京都大学理学部合格

(松原小学校出身)



僕たち現役合格しました。合格の秘密は付属中学校を選んだこと！

僕は高1の頃から京大を目指していましたが、中学の頃から高3になるまでは、多少は苦手なこともやっていましたがぼぼずっと好きなことだけをしてきました。特に中学1年の頃はある数学の先生のもので、ずっと数学しかしていなかった気がします。先生に頼めば先のこともやれるのが良かったと思います。しかしそのかわりに好きなことだけはできるだけ高いレベルにいられるように頑張りました。

そして高3になり、さすがにまずいと思ったので苦手なことの勉強をはじめました。しかし苦手な教科だけでなく、得意だと思っていた教科であってもやはり苦手というものはあって、それを潰すのがとても大変でした。ですが苦手な箇所があっても、センター対策が始まる前に自分の苦手を見つけてしまい、センターが終わったらそれを潰して、過去問を数年分解けば大丈夫だと思います。大学ごとの特徴があるので、過去問を使って苦手潰しをしてもいいかなと思います。実際僕は両方行っていました。もちろんセンター前に潰し終わる人もいますが、そういう人たちはそのままやっていけば受かるかなと思います。

この時期は不安になる人もいるかと思いますが、そういうときは僕は友人たちと雑談をしたりしました。でもこの方法は全員に効果があるわけでもないですし、その友人たちの迷惑にならない程度にすべきかなと思います。(僕ははっきり言って迷惑になっていたと思います。)

あと本番に緊張しすぎると失敗する人が多いように感じるので、自分が緊張する人間なのか、もしそうならどうすればその緊張を解けるかということをセンター前には確認しておくといいと思います。

最後に注意ですが、このような文章や先生の話をつか読んだり聞いたりすると思いますが、その後に自分に適切な方法を自分で考えるのが大切です。自分にあってない方法を続けても、受験勉強という観点で見ると時間の無駄になってしまいます。

中学の3年間に高校生を見ていることにより高校1年で志望校が決まるのかもしれない。

志望校合格のためには中学時代に興味のある勉強の思い存分やることも大事なんです。

受験は団体戦という言葉がありますが、6年間付き合った仲間はかけがえのないものです。